

月刊島民

中之島

Vol.67 2014 2/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン



ナカノシマ大学

「相撲を見よう!
大阪場所を
10倍楽しむ方法」

申し込み受付中!

研大

浪花百景

中之島周辺を画題にした風景の中には、
働く人たちの生き生きと描いたものが多い。
江戸時代から、働く島民は中之島の名物だった。

文／山下敦子 写真協力／大阪府立中之島図書館

「働く島民」

島民流「浪花百景」の見方 其の二

幕末大坂の名所
錦絵シリーズ



「大江ばしより鍋しま風景」国員画

中之島(画面右)と堂島を結ぶ大江橋を渡ろうとしているのは、相場師(台帳)を腰にぶら下げた米の仲買人。橋の欄干の間から見えるのは鍋島藩蔵屋敷の白壁で、右端の白壁が途切れた茶色のあたりが船入橋。



「堂しま米市」国員画

門の向こうでは熱気あふれるセリの真っ只中。手前の石段下の男たちは、もみくちやにされたのか肩がはだけたり浮かない表情に映る。気力を充電中なのだろうか。

相場師たちのセリ、
えらい熱気や...

精力を養いもう一勝負
といったところか。
今橋つぎの風景で
は、中之島を離れ、船
で米を運ぶ様子が描か
れる。奉行所へ運ぶの
か、はたまた道頓堀へ
向かうのか。日本経
済を支えるべく懸命に
働いていた幕末の島民
の姿が描かれる。

堂しま米市の押し合いへし合いする
相場師たちと足元に散らばる扇子やキ
セル。仲買人のエネルギーが爆発する
一枚。画中であえて上半身を描かない
ことで、手を突き出して指の符帳で競
りあう姿を想像させる。さすが日本経
済の中心といった活気に満ちた空気が
伝わる。画中にはないが、当時石段手
前の川べりに鰻屋の船もあり、そこで

米
の産出量(石高)を基準に経済
が回っていた江戸時代。全国で
収穫された米は大坂に運ばれて、堂島
の米相場にかけられた。大江ばしより
鍋しま風景の左側に大きく描かれた足
元に注目。江戸後期の風俗に詳しい『守
貞謾稿』によると、足袋と一緒になつ
たつなぎのパッチは米相場の仲買人の
定番ファッションだった。大江橋を渡
り、「いざ! 米相場の戦場へ」と、
気合を入れて堂島へ出かけるところを
描いたのだろう。

はるばる来たぜ大坂!

中

之島の西の端から橋を渡ると、大坂最大の魚市場・**雑喉場**があった。ふんどしを締めた市人が威勢よく魚を運び、米市場とは一味違う雰囲気。逆に中之島の東の端を渡って進めば天満の青物市場。島を挟んで多くの商人が行き交った。

川口雑喉場つきじの中央対岸にある



「川口雑喉場つきじ」芳濤画

木津川と安治川の分流する川口は三角地帯を形成し、諸国から入る船を監視する船手奉行所が置かれた。右端に見えるのは旅人相手の茶屋か料亭か。



「雑喉場」芳濤画

魚をザルに移し、次々と市場内に運び込む男たち。中央の男の左肩には大きな魚を入れたト口箱が。毎朝、近海で獲れた魚が荷揚げされる様子は大坂の風物詩。

のが入港管理をしている船奉行所。真ん中に鎮座するのはお奉行さまか…。橋上の黄色の着物を着た男は、服装の特徴から察するに、北海道（蝦夷地）から荒海を越え米や海産物などを大坂に運んできた北前船の船頭と推測。中之島界限は、米をはじめ諸国の物流が入る場所としてにぎわった。

最後に、**玉江橋景**の中央に見えるのが四天王寺の五重塔。玉江橋から真南を見たら五重塔が見えるのが大坂の七不思議というのは、「鷺取り」など上方落語の常識。橋をわたるのは巡回する幕府の警備隊か。これも、風雲急を告げる幕末の情勢を反映した働く人たちの姿。

見回りも
大事な仕事



「玉江橋景」国員画

欄干の向こうに見えるのは中之島の蔵屋敷。橋の真ん中を馬にまたがり護衛者とそぞろ歩く役人らしき人物に対し、かたわらでひざまずく町人の対比が印象的。

米を届けに行って
参りやす

「今橋つきぢの風景」国員画

手前が今橋で、奥に見えるのは葎屋橋。左奥は当時、築地（蟹島）新地に軒を連ねた料亭が旅館だろう。橋の上の男たちは「ぎょうさん積んどるな」とねぎらいの言葉?



『浪花百景』とは?

大坂を代表する100の名所を3人の浮世絵師（二珠斎国員・養斎芳濤・南粹亭芳雪）が競作で描いた。幕末の大坂で流行った錦絵で、いわば現代のガイドブックのようなもの。今回はその中から中之島周辺の画をいくつかピックアップし、130年前の島民の生活にタイムトリップしてみた。絵の内容は大坂府立中之島図書館のウェブサイト(<http://www.library.pref.osaka.jp/site/oe/nishikie-index.html>)で検索可能。

花見じゃ、
花見じゃ



「浪花橋夕涼」国貞画

中之島の川は舟遊びの拠点で、画の中央にはずらりと茶屋が並ぶ。左上には花火の余韻が趣深く描かれる。屋形船の上では納涼客らが宴会中といったところか。



「天満天神地車宮入」芳龍画

画の端に必ず描かれる正方形の色紙型には作品名が書かれる。地車の曳き手らが揃いで着ている鮮やかな色の浴衣の柄と、その色紙の柄を合わせる絵師の技。

島民流「浪花百景」の見方 其の二 水辺にて遊ぶ

近頃は水辺が街遊びのキーワードのようなだが、そんなことは江戸時代から大阪の人たちにとっては当たり前に見よ、この楽しそうな表情を！



「天満樋の口」芳雪画

対岸の桜並木は今も変わらぬ桜の名所として人々に愛される桜ノ宮。画の左側にある茶屋に入り、のんびり団子でも食べながら見物しているのは旅人だろう。



「さくらの宮景」国貞画

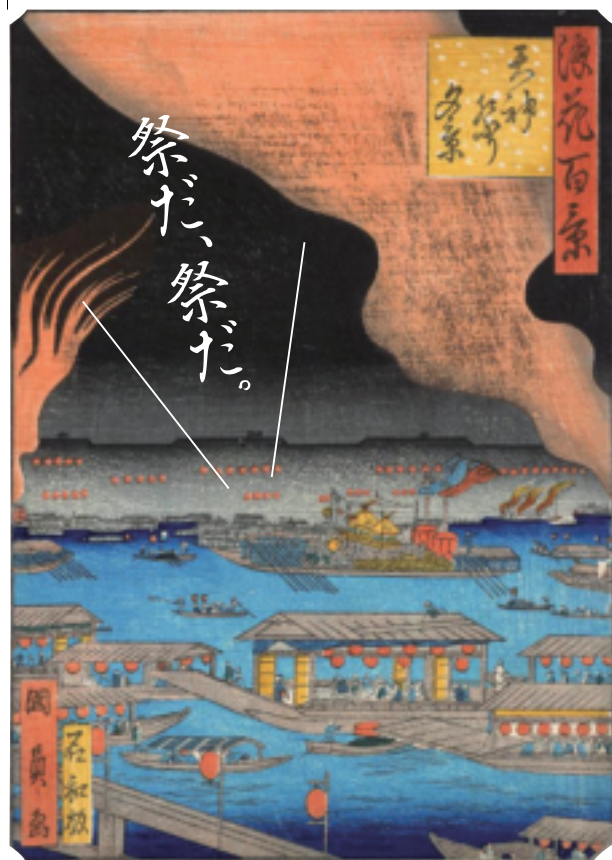
楽器を演奏するのは、芸人が花見を楽しむ町人か。天井が高いので川沿いの茶屋か屋形船の中かは定かではないが、風にゆらめく提灯が陽気な雰囲気演出。



「川崎ノ渡シ月見景」芳雪画

現在、造幣局のある一帯（中央手前）は川崎村と呼ばれた。その川崎村と備前島（中央奥）を結ぶ渡しが川崎渡。右端に見える大きな橋は寝屋川にかかる京橋だ。

月見で一杯



「天神祭り夕景」国員画

大阪の夏の風物詩、天神祭の船渡御。画面中央には神輿をのせた奉安船が描かれる。炎のように立ち上るのは、かがり火をデフォルメして描いたものだろう。

市 中には港や河川が発達し無数の運河がめぐる―江戸時代から大坂といえば、やっぱり水都だった。行楽船や旅客船、渡船に運搬船などさまざまな船が絶え間なく行き来し、諸国から米や物資が集まる経済の中心地として活気溢れる一面で、同じ水辺で情緒たっぷりに娯楽を楽しみ英気を養う島民の姿もある。

秋の夜長といえど春は桜。両岸に満開の桜や屋形船を背景に、お茶屋で花見に興じる人らをクローズアップしたのが**天満樋の口**。川を隔てた向こう岸は現在の桜ノ宮の桜が咲き誇るエリアだ。**さくら宮**は揃いの浴衣をあつらえ、桜を愛でながら酒盛り宴会の真っ最中、右の男性が布を口カビリー風に首にまき、一杯機嫌で楽しそうに三味線を奏でる姿は何とも粋ではないか。

夏も舟遊びには絶好の季節。ときに天神祭の陸渡御の地車の宮入や船渡御の船団を華やかに描き、ときに**浪花橋夕涼**のようなしっとりとした橋をくぐる屋形船から花火を見上げる情緒を描く。納涼や花火見物などが盛んで難波橋付近は舟遊びで有名だった。

秋の夜長といえど春は桜。両岸に満開の桜や屋形船を背景に、お茶屋で花見に興じる人らをクローズアップしたのが**天満樋の口**。川を隔てた向こう岸は現在の桜ノ宮の桜が咲き誇るエリアだ。**さくら宮**は揃いの浴衣をあつらえ、桜を愛でながら酒盛り宴会の真っ最中、右の男性が布を口カビリー風に首にまき、一杯機嫌で楽しそうに三味線を奏でる姿は何とも粋ではないか。



「戎嶋天満宮御旅所」国員画

戎島にあった大阪天満宮の御旅所に船渡御の船団がやって来ると、氏子たちはこぞって船を華やかに飾って出迎えた。人形を舐先に付けたお迎え船が見える。

「ビフォー」& 「アフター」

当たり前だが、昔と今とでは景色が違う。
名所と呼ばれる場所も移り変わる。
現代の風景写真と見比べてみよう。



江戸時代とは
場所が変わりました。



「^{たこ}蛸の松夜の景」国員画

藩邸の白壁沿いに雄大な蛸の松。枝ぶりが蛸の泳ぐ姿に似ていることから命名された。当時の広島藩主であった福島正則が植えたと言われ、大坂の名所として人々の目を楽しませた。人通りが少なく夜に歩くと寂しいエリアだが、月夜と対比して哀愁漂う中之島の別の顔を表現するのも絵師の技。明治時代後半に切り倒されてしまい、現在は中之島に場所を確保できず、有志によって堂島川沿いの田蓑橋北詰に再現された。

昔も今も交通の発着点です。



「八軒家夕景」国員画

奥に連なって描かれる六甲山のはるか手前、日が沈む方にあるのが中之島だ。現在は画に描かれている川の左半分ほどが埋め立てられ、天神橋よりも手前に突き出ている。石段を下りると多くの人が行き交う三十石船の渡船場がある。ちょうどそのあたりが現在では京阪電車の天満橋駅になっている。昔の渡船場も今ではプラットホーム。当時あったという常夜灯が、再現されたのも記憶に新しい。

中之島は今よりずっと短かった!?



「三大橋」国員画

手前から難波橋、天神橋、天満橋がかかる。画面の右下にちらりと見えるのが中之島の端っこ。現在の中之島は天神橋まで延びているが当時は難波橋の西側までしかない。今はトラックもビュンビュン走るエリアだが、江戸時代の橋は荷車の車輪が橋を傷めるため通行が禁止され、手前で荷を降ろして手で運ばなければならなかった。高速道路が上を覆い橋の存在感が薄れ気味の現代と比べると、当時の三大橋はゆるやかに反りあがった中央部が高く、見晴らしのよい絶景ポイントだった。朝日が昇りカラスが悠々と羽を広げる姿は、いかに三大橋が立派かを印象付ける構図の工夫だろう。

見れば見るほど面白い、『浪花百景』というドラマ。

橋爪節也（大阪大学総合学術博物館館長）

なんや、
ヤバそうやんか



「あみ嶋風景」国員画

網島は大川・寝屋川の合流地点にあり、漁師が常に網を干していたことから名付けられた。釣竿を持った釣り人がわざわざ振り返り、存在感を残すのも納得。

おや、こんな
ところで何を？



「天満ばし風景」国員画

大坂城の櫓を背に、黒の紋付を着て仏頂面で歩く侍をメインに描いたのは、橋の南側（画面右）に東西奉行所などの役所があったことを表したかったのだろうか。



はしづめ・せつや
近世から近現代まで、
大阪の美術史・風俗
史が専門。『浪花百
景』をテーマに、ナカノ
シマ大学にご登壇い
ただいたこともある。

浪花百景の出版は安政年間（1850

1860）と言われていたが、最近ではもともと幕末に近いとする説がある。中之島エリアを描いた作品は約20枚あるが、美しい自然や水辺の名所が数多くあり、そこには今と変わらない大坂らしい水都の姿が映し出され人々を楽しませた。

3人の絵師が一景ごとに趣向を凝らし様々な構図で描いた大坂の名所に思いを馳せて、自由にイメーজの中を闊歩すると、当時の大坂の歴史や文化が蘇ってくる。例えば天満ばし風景とあみ嶋風景は別々の作品だが、並べるとひと続きの絵になりストーリーが生まれる。笠を被った立派な武士が、「あつ、見つかつちやつた」と驚き指差す方には強面の侍が。「上司は桜見物でいいよな…」などと、画面人物の台詞や思いを想像するのも一興。絵師たちが画面中に仕掛けたカラクリを熟覧すれば、当時の風俗、自然や人情、人間関係や空気感までもが伝わってくる。もし現代版の浪花百景が描かれたとしたら…。グランフロント大阪や中之島フエスティバルタワー、あべのハルカスが取り上げられるはず。そこに現代の絵師はどんなメッセージを描きこむのか。

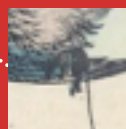


きたのひょうてい
「北瓢亭」国員画

「瓢亭」は「浮瀬」「西照庵」とともに登場する三大有名料亭のひとつ。左の巨木にしがみつく奇妙な生き物は…。客寄せの看板猿!



ディテールもいろいろ!



「天満市場」国員画

大きく描かれた鳥たちの爪を見ると、天満の青物市場から獲ってきたネズミの争奪戦か。上空で展開する野性の戦い!



「心中慰留」

現代美術作家の東芋は、日本で最も有名な世話物「曾根崎心中」を取り上げた。アーティスト・杉本博司が手がける「杉本文楽 曾根崎心中」に関わる中で、心中という道を選んだ遊女・お初の方の心の闇や世間の不条理さに打たれた。そうした経験から、現代に生きる女性として、お初に心中を思い留まるよう説得するという手紙を作品にする。美しい筆文字でしたためられているのは、「男のために命を落とすなよ」というもので、封筒の消印を「SANZU」(=三途の川)とするなどユーモアたっぷり。オリジナルの絵と合わせて、お初の心に寄り添い、問いかけた。



アートエリアB1「鉄道芸術祭」オリジナル作品を鑑賞
現代の作家たちは、
大阪をどう描いたのか。

取材文／大迫力(本誌) 写真／李宗和



「十月十日 伏見の一日」

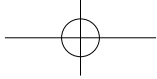
『その場小説』など、ライブで言葉を紡いでいくのが得意ないしいしんじさんは、家族と一緒に中書島や伏見の街を歩き、その時に考えたことをフォトエッセイとして形にした。いしいさんは京阪沿線について、「現代のテクノロジーが発達しても水という自然と寄り添いながらあるところ」と評した。十石舟に乗ったり、名水を飲んだり、「水の道」をめぐる旅は、大阪市住吉区生まれで水のある場所に縁が深いことを常々意識していたいしいさんにとって、自身のこれまでの人生を振り返るものとなったようだ。



「流れのアルバム」 「流れのライナーズノート」

互いの著書への寄稿で縁のあった奇才同士のコラボレーションは、「架空のアルバムをつくらう!」。二人で京阪沿線を歩き、そこで得たイメージから町田康さんが歌詞を制作。また、駅名からのインスピレーションで「なんにも野江」「墨染が酔っちゃった」「あああああ。天満橋でフィーバーしてる。」などの曲名を創作。全19曲入りのレコード「流れのアルバム」となった。二人の道行きやアルバムができたなりゆきを、ほしよりこさんが鉛筆画のマンガにしたのが「流れのライナーズノート」。読んだ人の耳にはどんな曲が聞こえたのだろう。





「京阪電車とミステリー」

大阪生まれで、現在も大阪を拠点に執筆活動をしている作家の有栖川有栖さん。京阪沿線にまつわるテーマとして選んだのは、日本の探偵小説の草分けである江戸川乱歩。作家として歩み始めた頃、乱歩は守口市に居を構えていたことから、有栖川さんは「日本のミステリーの発祥の地は現在の守口市であり、京阪沿線」と書く。さらに、初期の名作『D坂の殺人事件』で描かれるトリックが、京阪電車の線路沿いの柵を見たことがきっかけになったという逸話も。まさしく「京阪電車とミステリー」の意外なつながりが明らかにされた。



有栖川有栖

メインプログラムでは京阪電車46駅の名前が書かれた柱に、その駅を象徴する本や名物が展示された。



知は誰にでも備わっているんです」

吸収して咀嚼しているからだと思えます。言葉による表現は、自分の背景と結びつけるヒントが多いのでしよう。ふだんからメールや会話で言葉のやり取りをしていますから、その意味を読み解くのは慣れている。言葉や文字が拓くイメージの世界を旅する能力、その身体



柴崎友香

「水と人が集まるところ」

大阪市大正区生まれながら、中学や高校時代によく遊んだ友達は京橋や千林が多かった。その友人たちがいた街を訪ねてみようというところからスタート。昔の記憶をたどって歩くうちに、アイデアは探偵小説へとつながった。ユニークなのは、タブレット端末を使い、人物の会話がスマホの「LINE」のようにになっていること。これは柴崎さんが実際に街を歩いている時に、友人たちと、「あの店はどこやったっけ？」などとやり取りをしていたのが元になった。日常の何気ないことが言葉に置き換えられていったのは、柴崎さんの作風にも通じる。

時空を超える言葉が人間にもたらすもの。

昨年10月から12月にかけて、京阪電車なにわ橋駅のアートエリアB1で開催された「鉄道芸術祭」。今回は、言葉を使ったさまざまな表現を駆使して京阪沿線の物語を掘り起こした。展覧会では、大阪にゆかりのある作家が沿線にまつわるオリジナル作品をつくりあげた。同じ沿線をテーマにしても表現の形態やプロセスはまったく異なる。一つ一つに関わりながら、アートエリアB1運営委員の木ノ下智恵子さん（大阪大学）は、言葉が時代や

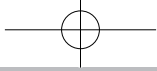
空間を超える力を実感した。

「上方には近代以前から続く文化の素地があります。近世なら木村兼葭堂を中心としたサロン文化や適塾・懐徳堂などの学塾、さらに古代には都がありまして。そのことを伝えるのが言葉であり本です。文字による表現は、誰でもたやすくイメージできる。今回、作家の方々に沿線を巡ったり資料を元にして、感じたことを現代の言葉で作品化してもらいました。それによって、その場所の物語が文字として時空を超えて今に甦りました」

同時に、言葉や本と人間の関係についても発見があった。

「今回、お客さんの滞在時間がとても長かったんですが、言葉を一つずつ





かもめ船長の
水辺航海日誌

二月〇X日



年末年始の水辺事情 いろいろ。

気分だけでも。

例えば、夏の風鈴のような役目を果たしてくれるものはないものか。そんなことを毎年冬になると思う。残念ながら冬の船上は容赦なく寒い。小舟の上でどんだん火を焚くわけにもいかないし、使える電力も限られる。そこで「気分だけでも」となるわけだ。



冬のクルーズにこたつは必須。

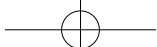
炭が炉でいこつているときのチロチロとした炎の色合いなど、あたたかみを感じられる情景はいくつか思い浮かぶのだが、実際に発熱しているものばかり。冷やすわけではないのに涼を演出するモノがあるのだから、温めるわけではないのに暖を演出するモノもありそうなものだが、どなたかご存じないでしょうか？ 冬の水辺に着膨れした船長は、そんなふうに着膨れしたチリンチリンを妄想したりしている。



ライトアップシーズンも人気だったあひるちゃんこと「ラバーダック」。後ろ姿もかわいい。

ふわふわの衣装。

毎年年末になると、中之島の周りにサンタ船長が操る船が数々登場する。クリスマスイルミネーションに合わせて、遊覧船にもキラキラと飾りを付け、中之島の夜景をめぐるクルージングが共同で開催されている。私もその中に混じって、例のコスチュームに付けヒゲという出で立ちで、昨年



末も船を出していた。

そんなある晩、舵を握る手元を見て気がついた。「サントの衣装、ぬくいなあ」。なんとなく、襟元や袖口についた白いふわふわはメルヘンのためにあるように思っていた。正直なところ気恥ずかしく思いながら毎年着ていたが、そこらのダウンジャケットを着ている以上の暖かさがある。

以前、お客様に手首足首を温めることをアドバイスされたことがあるが、まさにサントコスチュームは、見た目だけでなく機能的にも「暖かい」デザインと実感した次第。そう考えると冬の日本の漁師さんとか何を着ているのだろう。服装にはまだまだ工夫の余地がありそうだ。



メルヘンだけでなく、機能的な「ふわふわ」。

冬の男の仕事。

お祭しの通り、この厳冬期は運行数も極端に減り、オフシーズンとなる。「ほう、冬場はお休みですか。よろしいですねあ」と言われることも多いが、わりあいいろんな作業が待っている。例えば、



高圧洗浄機。まさに汚れと「格闘」する感じ。

ば、船底の掃除と塗装は元（現？）モヤシつ子の私にはガッツのいる作業だ。

いつも水上に浮かべている船を造船所などで陸に上げ、貝や藻で汚れた船底を高圧洗浄機で掃除改めて塗装をしない。この小さな貝や藻は、燃費を思った以上に悪くするので年に一度はやっておきたい作業であり、まとまった日数を運休にできるこの季節に行くことになる。

しかし、寒風の中、水しぶきを浴びるし、仰向けに船底の下へ入って塗装するのもなかなかハード。釣りなどで船のことに詳しい方なら当たり前なこの作業。私が多少は男らしくなれたような気がしたのは、船長を始めた時よりこの作業をやり遂げた時だった。

冬に知る水門の恩恵。

この季節の「水辺あるある」と言えば、水門の点検整備に伴う長期の閉鎖だ。ここという水門とは、北浜にある東横堀川水門と京セラドーム大阪の対岸にある道頓堀川水門のことで、これらは水の災害から都心部を守り、水位調整や水質浄化も担う働き者。船を通すための開門はふたつで年間

9000回近くも稼動するそうだ。

都心の遊覧には欠かせない道頓堀への出入口であり、潮位が高いときに中之島の低い橋を避けて大阪港へ抜けるためのバイパスとしても重要なため、このオフシーズンにメンテナンスが行われる。ひとつでも閉鎖すれば、運航計画は気まぐれな潮位変動に振り回されることになるので、冬は水門がいかにありがたい存在かを思い知る季節でもある。

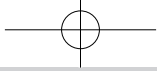
まもなく水門の閉鎖も終わり、3月の下旬には「川開き」。あつという間に桜クルーズの繁忙期がまたやってくる。



水門は川の安全を陰で支えている。



中野弘巳 御舟かもめ船長
なかのひろみ
中之島をはじめ大阪の水辺をクルーズする
小さな遊覧船「御舟かもめ」船長。
桜クルーズの予約受付は2月末から。
<http://www.ofune-camome.net>



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懷徳堂
プロジェクト

相撲の季節が
やってくる

◎今月の授業

【大相撲】

2014年3月講座

「相撲を見よう! 大阪場所を 10倍楽しむ方法」

講師／浦風富道(元・前頭筆頭 敷島)



何かと話題の大相撲を地元で見られる喜び。
相撲の歴史、力士の所作、テレビ観戦の見どころまで、
元力士の現役親方がたっぷり解説!

大阪に春の到来を告げる風物詩の一つが、大阪府立体育館で開催される大相撲春場所だ。大阪はもともと相撲興業が盛んだった土地でもあり、その歴史は古く、毎年心待ちにしているファンも多い。

その大相撲をもっと楽しもうというのが今回の講座の趣旨。元大相撲力士の浦

風親方(元・敷島)が、相撲の起源や大阪とのつながりといった歴史、他にはない力士特有の所作、あるいは意外とよく知られていない大相撲に関わる人々など、基本からレクチャーしてもらう。

今年のお大阪場所は3月9日(日)から開催されるが、テレビ中継を見る時のポイ

ントや好きな力士の見つけ方など、今まであまり見なかった人でも

相撲を好きになれるはず。日本で大相撲の本場所が開催される都市は数少ない。地元で見られる幸運を噛みしめながら、大阪人こそ相撲をもっと楽しもう。

浦風富道

平成元年一月場所入門。平成六年十一月場所で新入幕。平成十年三月場所4日目には横綱・貴乃花を初対決で破る金星を挙げ、翌五月場所でも破る記録を作った。幕内最高位は西前頭筆頭。引退後は陸奥部屋所属の浦風親方として後進を指導。角界以外にも広いネットワークを持ち、トークショーなどにも積極的に出演している。



元・前頭筆頭 敷島

募集要項	「相撲を見よう! 大阪場所を10倍楽しむ方法」	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。
	日時／2014年3月5日(水)	〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
	7:00PM~8:30PM(開場6:30PM~)	「ナカノシマ大学3月講座」受付係 FAX:06-4799-1341
	会場／中央電気倶楽部	※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
	受講料／2,200円	※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

うまさぎっしり新潟



関西人のための

「新潟のええところ・うまいもんゼミナール」 いよいよファイナルとなりました。

第5回「新潟の地酒とうまい肴を味わう会」講師／葉石かおり

お待たせしました。最終回は美酒と郷土食材を「全面解禁」!

「こんなたくさん新潟ファンが大阪にいたのか!」。新潟県関係者も驚愕した人気の「いがたゼミ」、いよいよ最終回です。過去4回は「話を聞き映像を観て空腹をこらえたため息をつく」というパターンでしたが、ラストだけはそうはさせません。新潟の美味いもんとお酒を存分に味わっていただける場を設けて、締めくくりといたします。

講師は、きき酒師の資格を持つエッセイストの葉石かおりさんが和服で登場。新潟県内90余りの蔵元から彼女が選んだ地酒に、丸干しイカ、栃尾の油揚げ、鮭の焼き漬けなど絶品のアテが絡みます。冬らしく寒ブリのぶりしゃぶやのつべい汁などもどうぞご期待ください。

会場は梅田、グランフロント北館にあるキッチン併設型イベントスペース「Cテラス」。新潟の食材とお酒をドンと持ち込み、NHK料理番組や酒造会社のイベントなどで活躍中のフードコーディネーター・小泉麻衣子さんのチームが目の前でお料理。時間も2時間に延長します。今回は有料ですが、お釣りがくるほど新潟の味を堪能できるはず。お楽しみに!



はいし・かおり

酒蔵や酒場の取材、日本酒のセミナー・講演多数。著書に『隠れ酒がうまい!』(講談社)、『東北美酒らん』(角川書店)、『日本酒テイステイングBOOK 西日本編』(権出版社)、『カッコイイ女は「おひとりさま」上手!』(PHP研究所)等。『ゆるキャリ』を提唱、ワークライフバランスの大切さを問う。現代女性のおひとりさま事情にも精通。



●第5回の会場は

グランフロント北館5階、HDC大阪のキッチン併設型イベントスペース「Cテラス」。新潟のお酒とうまい肴が着席スタイルで楽しめます。お買い物やショールームめぐりと一緒に楽しんでください。

<http://www.hdc.jp.net/cterrace/>



最後の授業
美酒・美味

上／日本酒王国・新潟の酒オールスター。この中から葉石さんリコメンドの銘酒を試飲
下／新潟の酒と抜群の相性のブリしゃぶ。寺泊漁港(長岡市)直送の旬の寒ブリをぜひ!

「新潟の地酒とうまい肴を味わう会」

日時／2014年2月26日(水)

6:30PM～8:30PM(開場6:00PM)

会場／Cテラス(グランフロント大阪北館5階) 定員／30名

受講料／3,500円(地酒と郷土食材の試食・試飲含む。お土産付き)

主催／新潟のええところ・うまいもんゼミナール事務局

後援／公益社団法人新潟県観光協会

協力／HDC大阪、関西食ビジネス研究会

お名前・ご住所・電話番号を明記のうえ、下記までハガキ、ファックス、もしくはナカノシマ大学HP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添えください。〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階「関西にいがたゼミ」受付係 FAX.06-4799-1341 ※締切=2月10日(月)必着。応募者多数の場合は抽選とします。受講票は当選した方のみ、2月17日(月)までに発送します。

今月のテーマ【バーテンダー】

扉を開ければあたたかく迎えてくれるバーテンダー&バーテンドレス。
シャツの着方ひとつで店の空気も変わる。だから、そのスタイルはさまざまだ。

取材・文・写真／李 宗和



審査員／^{くきもと}久木元 亨さん

中之島ダイビル1階にあるシャツ専門店[LES LESTON]店主。お洒落なシャツの着こなしは中之島では有名。メンズだけでなくレディースのシャツもオーダー可能。服好きは一度訪ねてみるべし。☎06-6448-8330



初めての人も大歓迎です。

サンポア・ザ・ヒルトンプラザ
伊與忠克さん

昔は1時間で100杯以上カクテルをつくるほど忙しかった系列店のバブで修業をしていました。有名な堂島店の2代目に声をかけられ店長になりはや13年。心がけているのは、素早く美しく丁寧なカウンターでの立ちふるまいです。お酒だけでなく、[サンポア]という非日常の空気感を楽しんでいただければ幸いです。とはいえ、ヒルトン大阪の地下という場所柄、観光でいらした一見さんも多く、カジュアルな雰囲気も意識しています。気軽に訪れてください。

シンプルかつ清潔感のある着こなしで、誰にでも好感を持たれそうです。そこにちょっと大きめの蝶ネクタイを持ってきて、華やかで親しみやすい感じを巧く演出していますね。ラベル(下襟)の幅が広めなのもよく合っていますよ。

FOGGY
橋本夏也さん

矢沢永吉をテーマにしたショットバーを開いて35年が経ちました。創業当初は堂山にあり、お客さんは矢沢ファンばかりでしたが、古美術の街と言われる老松町に移転してから、矢沢永吉以外のマニアな方にも多く来ていただいています。私自身も刺激を受けて、オールドアメリカの古着雑貨を扱う店を開いたり、店内で落語やブルースのライブを行うようになりました。酒場からはじまるいい出会い。そんな「お酒の向こう側」をみなさまにも提供できればと。

キャメルに黒を持ってくる色合わせは、男性はあまりやらないんですが、実は大人の着こなしの定番。ドット柄のチーフも、奇抜に見えて、モノトーンなのでちょうどいいアクセントに。ファッションで店のスタイルを語ってられます。



酔うことだけが酒場ではありません。



ヘッドシェイクには自信があります！

は おうじゅ
覇王樹
萩窪 誠さん

高石市生まれで、前職は職人。秋は毎年だんじりを曳いていました。自宅にバーカウンターをつくるほどのお酒好きが高じ、北新地でこの仕事をやっています。特にカクテルに興味があって、始めた頃はお店周辺のバーを片っ端から飲み歩き、バーテンダーさんの動きを研究しました。美しいと言われる3段階のシェイクが得意技です。今は中之島に住んでいるのですが、便利できれいで住み心地抜群ですね。地元の友人には「似合わん」と言われますが(笑)

がっしりしておられるので、シャツ1枚でも絵になります。シャツだけというのは男のダンディズムが一番発揮されるんです。だからこそ、袖にアジャスターを付けるより、体に合ったオーダーのシャツを作られてはいかがでしょう。



素敵な「竹鶴」のひと時を。

The Court
金崎愛子さん

近代建築の芝川ビル内というロケーションも自慢ですが、試してほしいのがウイスキーの「竹鶴」です。ビルの地下から、なんと半世紀以上前のニッカウキスキーが発見されたんです。ウイスキーの父と呼ばれる竹鶴政孝ゆかりの地であることを知って以来、「竹鶴」をよく勉強して多く取り揃えています。その甲斐あってか、去年は竹鶴アンバサダー・オブ・イヤーという荣誉ある賞をいただきました。お気に入りの一杯を探すお付き合いをしっかりとさせていただきますよ。

シャツにネクタイというのは女性のワードローブにはないファッション。でも、蝶ネクタイならキュートでかわいらしい印象です。腕まくりも、リラックスした感じがしますね。せっかくなら、ワンポイントでもアクセサリーを付けたりしてみては。女性ですし、そういうドレスアップも良いのでは。



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY



龍谷大学 龍谷エクステンションセンター
RYUKOKU UNIVERSITY

龍谷大学の公開講座「RECコミュニティカレッジ」

龍谷エクステンションセンター（「Ryukoku Extension Center」＝「REC」）は、

龍谷大学が374年の歴史の中で培ってきた教育・研究成果を、地域社会に普及することを目的につくられた組織です。

地域に開かれた大学を目指して1992年にスタートした市民向け生涯学習講座「RECコミュニティカレッジ」は、

「仏教・こころ」「文化・歴史」「文学」といったコースに年間約440講座を配し、皆さまの知的欲求にお応えしています。龍谷ミュージアム提供講座もその一つ。

日本初の仏教総合博物館「龍谷ミュージアム」での研究成果をもとに、仏教の世界をわかりやすく解説しています。

◎RECコミュニティカレッジは大阪梅田・京都・滋賀のキャンパスで開講しています。☎06-6344-0284 <http://rec-ryukoku.jp/>

「絵解き」仏教あんない ～見て、聴いて、学ぶ仏教の世界～

◎第3回「絵解ライブ！」

対談／入澤 崇（龍谷大学 龍谷ミュージアム館長）

釈 徹宗（相愛大学教授・浄土真宗本願寺派如来寺住職）

聖徳太子の生涯を描いた
絵伝を使って、
「絵解き」をライブで実演！



滋賀県高島市の妙楽寺で、「聖徳太子絵伝」を使って絵解きをする村松先生。

仏教絵画を解説し、仏教を多くの人々に広める営みを「絵解き」と呼ぶ。その絵には描いた人々の思想や感情が込められており、そこからさまざまな意味や時代背景が導き出せる。これまでの2回の講座では、絵解きの源流とその展開、また日本でユニークな発展を見せた来迎図をテーマにお送りした。

第3回目となる今回は、いよいよ絵解きをライブで実演してもらうことになった。絵解きをしてくださるのは、龍谷ミュージアムの学芸員である村松加奈子さん。その題材となるのは「聖徳太子絵伝」だ。四天王寺の建立など、大阪にもゆかりの深い聖徳太子の生涯を描いたもので、太子が聖人化されていく様子がよくわかる。

何が描かれているだけでなく、絵画を使ってどのように仏教の世界を伝えたのが絵解きのポイント。今ではなかなか見られない絵解きライブは必見。それを受けて、入澤・釈の両先生のお話がどう展開するのもお楽しみに。



募集要項	「絵解き」仏教あんない 日時／2014年3月11日（火） 6:30PM～8:30PM頃（開場6:00PM～） 会場／龍谷大学 大阪梅田キャンパス 受講料／2,000円 定員／80名 主催／龍谷大学エクステンションセンター ナカノシマ大学事務局	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ず書き添え下さい。 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「龍谷大学コラボ講座」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

トウミン月報

2014年2月1日発行

ドイツの現代写真家 グルスキーの 初個展が開催中

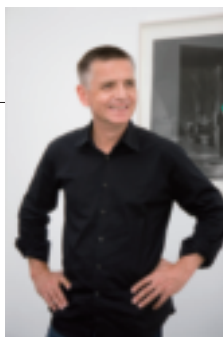


photo: ©Dominik Asbach

国立国際美術館ではドイツ生まれの写真家、アンドレアス・グルスキーによる個展が開かれている。グルスキーは世界的に活躍している現代写真アーティストで、日本での個展開催は今回が初めて。

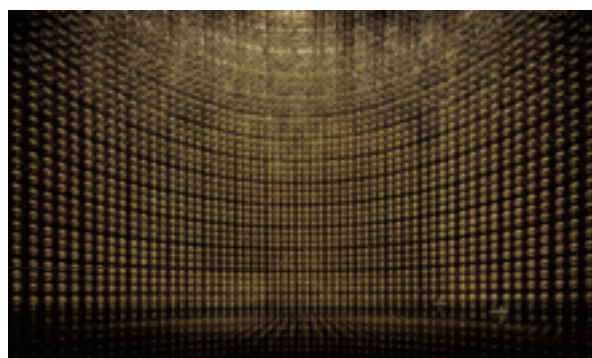
マドンナやエルトン・ジョンなどの著名人も夢中になる作品の魅力は、ご覧の通りの圧倒的なスケール感。現代社会の日常を捉えつつ、デジタル加工を施してすべてのポイントにピントを合わせてたり、

あるシーンを反復して繋ぎ合わせたりと、どこまでも広がる独特な視覚世界を構築。一見パノラマ作品のようなが、近寄ればまた違った表情が覗ける、不思議な作品群だ。

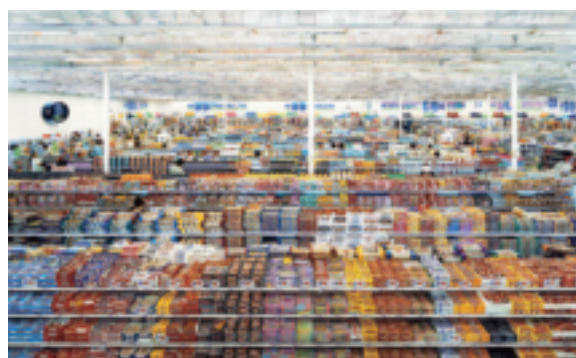
会場には1980年代の小型の初期作品や、近年の一面5メートルに及ぶ巨大作まで、厳選された約50点が集結。初期から年代順に展示する通例の様式とは異なり、日本での開催のために、グルスキー自身が構成した魅せ方で来場者を楽しませる。

作品のモチーフは世界各地の建造物や自然がほとんど。日本で撮影した「東京証券取引所」や「カミオカンデ」など、その迫力をぜひ会場で体感してほしい。（江口由夏・本誌）

作品のモチーフは世界各地の建造物や自然がほとんど。日本で撮影した「東京証券取引所」や「カミオカンデ」など、その迫力をぜひ会場で体感してほしい。（江口由夏・本誌）



アンドレアス・グルスキー〈カミオカンデ〉 Kamiokande 2007年 C-プリント 228.2×367.2×6.2 cm
©ANDREAS GURSKY / JASPAR, 2013 / 14 Courtesy SPRÜTH MAGERS BERLIN LONDON



アンドレアス・グルスキー〈99 セント〉 99Cent 1999年 C-プリント 207×325×6.2 cm
©ANDREAS GURSKY / JASPAR, 2013 / 14 Courtesy SPRÜTH MAGERS BERLIN LONDON

国立国際美術館「アンドレアス・グルスキー展」

期間／5月11日(日)まで 会場／地下3階展示室

開館時間／10:00AM～5:00PM(金曜は～7:00PM)※入場は閉館の30分前まで

休館日／月曜日(4月28日・5月5日を除く)

観覧料／大人1,500円・大学生1,200円・高校生800円 問い合わせ／☎06-6447-4680

BMCの写真集第2弾は 『いい階段』にスポットライト!



月刊島根やナカノシマ大学でもおなじみ、BMC(ビルマニアカフェ)の手がける写真集が新たに発売された。大好評だった『いいビルの写真集』に続き、今回注目したのは『ビル』の階段だ。

ビルには階段があるものとは言え、写真集にしてしまうと、前回に引き続き、1冊丸ごと撮影を手がけたカメラマンの西岡潔さんは「ビルと違ってポイントをつかみにくいかと思っていたのですが、BMCの人たちの解説を聞くうちにだんだんわかってきました。手すりとか階段の裏側とか、それぞれに好きなどころがあるんですね」とのこと。「階段鑑賞のツウなポイント」といったページもあり、

BMCのメンバーがふだんどのようにビルを見ているのか、その鑑賞法を学ぶこともできる。

前作よりも掲載されているビルのエリアが一気に拡大し、東京のビルも多数。中之島周辺のビルや建築の階段も登場しており、大阪府立中之島図書館や北浜レトロなど、よく知る場所のふだんは気づかない魅力にスポットが当たっている。こういう風に街での楽しみ方を増やしてくれる本の登場は嬉しいことである。

(大迫力・本誌)

写真／西岡 潔



観る! 味わう! 島民流梅の楽しみ方

大阪水上バスの 梅薫るクルーズ。

梅が見頃となる2月、中之島周辺でも観梅イベントが開幕する。大阪水上バスの「観梅ランチクルーズ」は、グルン・ミュージック船「ひまわり」にて帝国ホテル特製ランチをいただいた後、「アクアライナー」に乗り換え、水上から眺める梅の風情を堪能できるというコース。

ランチ後にプレゼントされるアクアライナー乗船チケットを提示すれば、大阪城の梅林近くまで送ってもらえるので、下船後は梅林の自由散策も楽しめる。1000本以上

大阪水上バス「観梅ランチクルーズ」

期間／2月8日(土)～3月16日(日) 予定
※2月12日～13日&月曜運休
時間／12:00PM～2:00PM
(ランチクルーズは1:20PM下船)
料金／A:4,725円 B:6,300円(料理の内容により異なる)
乗船場／OAP(大阪アメニティパーク)港
申し込み／要予約・全便前日の正午まで受付
※2月14日分のみ2月11日正午に受付締切
予約・問い合わせ／大阪水上バス・ひまわり予約センター
☎0570-07-5551(9:00AM～5:00PM)



大阪天満宮「てんま天神梅まつり」

期間／2月15日(土)～3月9日(日)

●「盆梅と名宝展」



期間／2月15日(土)～3月9日(日)
開催時間／9:30AM～4:00PM
※夜間拝観日の2月16日(日)と3月1日(土)は～7:30PM
拝観料／大人500円

●第8回「天満天神梅酒大会」



期間／2月15日(土)～2月23日(日)
開催時間／10:00AM～4:00PM
※入場料切3:30PM
入場料／前売り券600円
チケット購入や開催詳細は
<http://umesusu.jp/>まで

◎その他、夜間イベントなど、梅まつり期間中の催しについての問い合わせは大阪天満宮社務所まで☎06-6353-0025



の梅が植えられている大阪城の二の丸地区は、早咲きから遅咲きまで、関西随一の品種を誇る。3月半ばまで運行するクルーズは、遅咲きの梅目当ての乗客にも好評だ。

大阪天満宮の お祭りは梅つき。

1000本の梅が境内で花開く大阪天満宮も、定番の観

梅スポットだ。その見頃に合わせた「てんま天神梅まつり」では、菅原道真ゆかりの梅にちなんだ催しが次々登場する。参集殿で行なわれる「盆梅と名宝展」には50鉢以上の盆梅が集まる。樹齢200年の古木や銘木と並んで、大阪天満宮が所蔵する明治期の書画名宝が合わせて展示される。

また、夜間イベントとして、2日間にわたって能や神楽が奉納される。その間は夜間拝観も可能なので、気分を変えて夜の梅を味わうのもいいだろう。

さらに梅まつりならではの楽ししみとして、期間中の境内では名物「梅ノ木餅」や梅にゆづめん、梅昆布茶など、梅づくしのうまいもん屋台が勢揃いする。お酒好きには、

同じく境内で行なわれる「天満天神梅酒大会」がおすすめ。全国から選りすぐりの梅酒とリキュール300種類以上が一堂に会し、来場者の試飲に基づく投票で日本一を決定する。その場で気に入った梅酒の購入もできる、見逃せない一大イベントだ。
(江口由夏・本誌)



ナカノシマ大学にツイッターのアカウントができた。新しい講座の申し込み開始や当日券の情報、定員に達した場合の締め切りのお知らせなど、チケット関係の情報をタイムリーに掲載していく。

アップしていく予定。また、参加できなかったが雰囲気だけでも味わいたい」という人のために、開催中の写真や講師の方の表情もどんどんアップしていきたい。

というわけで、ツイッターアカウントをお持ちの島民読者諸君は、フォロー並びにリツイートなど情報拡散にもご協力を願いたい。ナカノシマ大学ツイッターのアカウントは「@nakanoshimauniv」。

ご期待！(大迫力・本誌)



諸君！ナカノシマ大学の
「Twitterのアカウントを
フォローすべし」

『いい階段の写真集』

(2,100円／バイインターナショナル)
BMCは、1950～70年代のビルを愛する5人のメンバーの集まり。前作『いいビルの写真集 west』からさらに深く突っ込んでビルの魅力を紹介する。厳選した40のビルの階段を掲載すると共に、階段の魅力についても詳述。前作からタグを組む西岡潔さんの写真にも注目。



華やぐ街に誘われて⑩

フェスティバルプラザの「大阪らしさ」をめぐる

10

人の天才シェフよりも、1匹の平目」。かのアラン・デュカスが、料理における素材の重要性を語る際に発した箴言である。

中之島フェスティバルタワー最上階のフランス料理「ラ・フェット ひらまつ」シェフ・長谷川幸太郎さんも、こう目を輝かす。「関西に永住したい。魚介も野菜も、こんなに素材のいい場所と働けるのは、シェフ冥利につきます！もちろん、お世辞じゃないですよ」。

デュカスと、長谷川さん。つまり、地球の西であれ東であれ、トップシェフほどシビアに優先するのは、素材。そして関西には、南仏の3ツ星と「レストラン ひらまつ 東京・広尾」で務めた経験のある長谷川シェフさえ、「永住したい！」と言わせる素材が、ひしめいているのだ。

「和歌山のサワラ。強烈な脂のノリに驚きました。太刀魚もスズキもカレイも。カルパッチョでいけますよね。東京では、カルパッチョにできる太刀魚なんて、想像できませんでした。同じく和歌山・宇城農園の野菜も、味のバ

ワフルさがスゴイ。関東の野菜は、甘みが少ないのでそれを



東京の名フレンチも動かす 関西の素材力。

文／寺下光彦(ワイン／フードジャーナリスト)



「金目鯛のブランチャー焼き 季節野菜と爽やかなレモンヴィネガーソース」。和歌山の魚介と野菜の素材力が勢よく弾ける、シェフのスペシャリテ。

補うレシピが必要ですが、関西は野菜そのものに力があるから、旨みをストレートに出すだけでいい。素材が良くなった分、料理法も変わりましたね」と声が弾む。

日本人経営のフランス料理店でバリで最も早くミシュランの星を獲得した店として、また政財界の首脳が訪れる東京を代表するグランメゾンとして知られる「ひらまつ」。その名門のレシピが、関西の素材力によって、さらなる進化を遂げているのだ。

しかも、進化は中之島の島内だけにあらず。ここで和歌山の漁港直送魚介

にふれたグループ総料理長・平松宏之さんも瞬時にその偉大さを見抜き、今では東京本店でも、「ラ・フェット」と同じく、和歌山から魚介を直送させているという。

つまり関西の素材力は、30年以上の歴史を誇る最高峰レストランまで、動かしているわけだ。「まだまだ今後、淡路島も丹波もまわって、いい素材を開拓して活用したい」と情熱をたぎらせる長谷川シェフ。もちろんその成果の第一報は、広尾ではなく中之島37階のテーブルに、上るはずだ。

てらした・みつひ

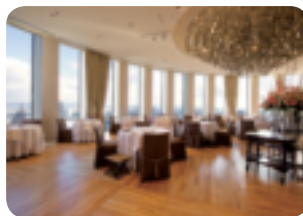
レストランやワイン取材にかけては、関西の雑誌の黎明期から活躍する第一人者。イタリア「ヴァイタリ」！国際ワイン品評会「招待審査委員。イタリア政府機関から美食ジャーナリスト賞を2010年に受賞。

祝 祭 へ よ う こ そ。



<http://festivalplaza.jp/>

提供／株式会社 朝日ビルディング



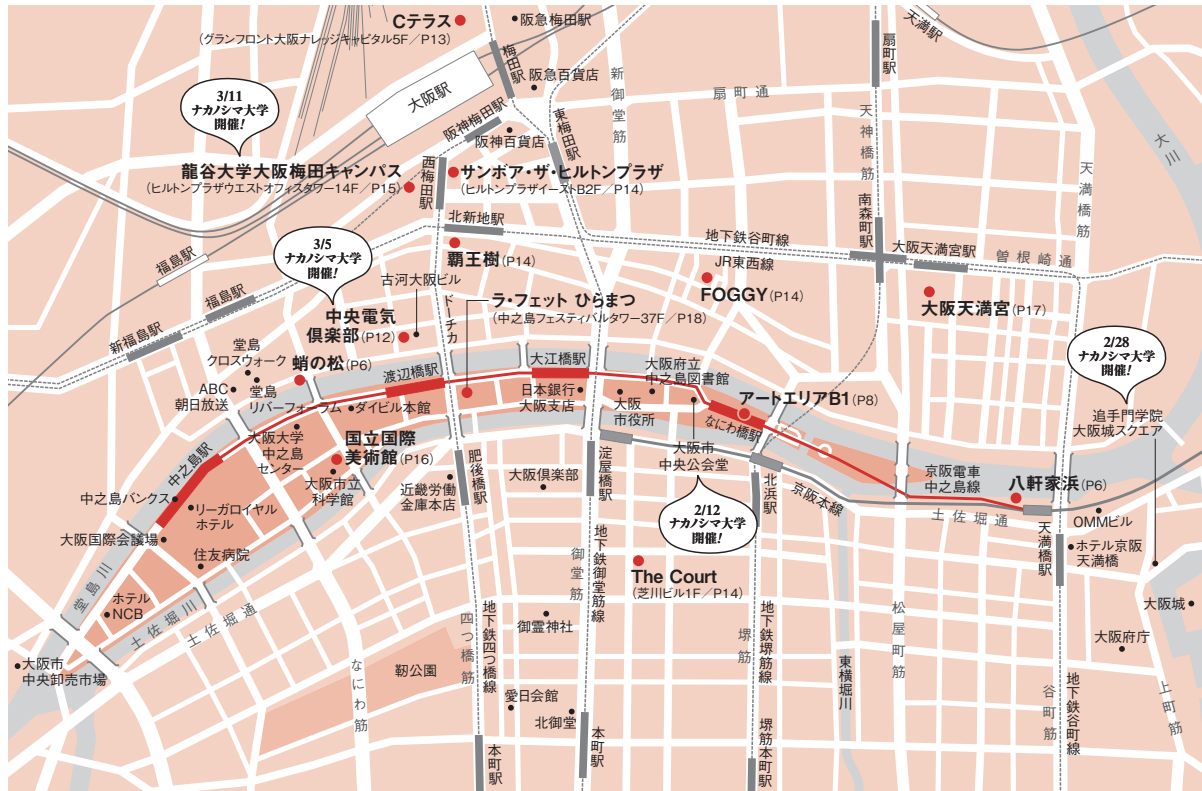
ラ・フェット ひらまつ

●中之島フェスティバルタワー 37F

伝統的なフランス料理の技法をベースに、フレンチとイタリアン双方の手法や感性を織り交ぜる。基本に忠実な料理法の中に、新鮮なアイデアを盛り込むのが長谷川シェフの信条。コースはランチが1,800円(平日限定)から3種、ディナーが6,300円から4種。開店当初からたちまち評判で、早めの予約をおすすめ。☎06-6233-1139 11:30AM～1:30PM(LO) 6:00PM～8:30PM(LO) 無休

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 【書店】旭屋書店 梅田地下街店／カベラ書店／紀伊国屋書店 梅田本店／紀伊国屋書店 本町店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／ジュンク堂書店 天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／スタンダードブックストア／天牛書店 大津橋店／ブックファースト 梅田店／ブックファースト 淀屋橋店／文芸堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店
- 【公共施設・大学関連施設など】アイズボット／朝日カルチャーセンター 味の素 食のライブラリー／ABC朝日放送 大阪企業家ミュージアム／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立中央図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院 大阪城スクエア／川の駅はちけんや／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪リバーサイドキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／中央電気倶楽部／ホテルNCB／メビック扇町／立命館大阪オフィス／龍谷大学大阪梅田キャンパス
- 【店舗・医院など】アリアスカ マーブルトレ／アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前料理 志津可／天満橋鍼灸整骨院／MJB珈琲店／大西洋服店／OOO(オー)／カセッタ／喫茶カンテロ／喫茶SAWA／グランドコート中之島／黒門さかえ／モモンカフェ／サトウ花店 中之島本店／ザ・プロディ／シトルベストコーヒー新聞電ビル店／じろう亭／Girond's JR／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院／セブンイレブン大阪証券取引所店／タビエスタイル／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ナンジャノ／バスターレ／花かつ／BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／フレイルハウス／ミニジロー／宮 崎歯科／やきとりばかや／吉田理容所／ラクッカーニヤ／LES LESTON
- 大阪市内その他 【書店】伊勢屋書店／大阪書店／紀伊国屋書店 京橋店／なんばミヤタ／福島書店／柳太店／ループル書店 【公共施設・大学関連施設など】大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立図書館／川口基督教会 【店舗・医院など】あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリパール／大阪市信用金庫 江戸堀支店／御舟かもめ／Calo Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネイルサロン スワンナ／バルビコ／ホステル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店／学運堂 フレスト店／Books 呼文堂／水嶋書房 千早はもろ店／大阪狭山市立図書館／大阪大学企画部広報・社学連携事務局／大阪大学 21世紀徳徳堂／大阪大学本部／寝屋川市役所／摂南大学 地域連携センター／郵政考古学会／ゆったりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／川のほとりの美術館／納屋工房／タバーン・ジンプン／百録／奈良県立図書館情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 中之島に昼がきた。

オフィスビルにある食堂やカフェテリアは、今どうなっているのか？
それぞれにサービス満点の、中之島のお昼ご飯事情最前線をレポートしよう。

●『月刊島民』vol.68は2014年3月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狹健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 江口由夏 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社



おけいはんの錦アドベンチャー

にしきいちば
京を味わう「錦市場」へ、祇園四条駅から。



おけいはんが錦市場を探検!
フォト日記やエリア紹介マップをweb上で公開しています。

チャレンジおけいはん 検索

Facebook

@c.keihan

※ 詳しくは、京阪電車主要駅のチラシをご覧ください。



歩くだけで
ワクワクする

京阪の
おけいはん人。